

<タイトル>

市民公開「知って得する！きこえと認知症のおはなし」を開催！

<本文>

東京医科大学八王子医療センター耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、「知って得する！きこえと認知症のおはなし」というテーマで、令和6年5月26日（日）東京たま未来メッセ会議室1・2にて、講演を開催しました。当日は、180名と多くの方にご参加いただきました。

講演1では、同センター小川恭生教授が「加齢性難聴と認知症のおはなし」について講演しました。まずは難聴についての解説を行い、また加齢とともに進む加齢性難聴についてとりあげました。昨今難聴は、認知症の危険因子のうちの1つであり、予防可能なものうち最も大きな危険因子の1つであると様々な論文やメディアでも取り上げられていることを紹介し、難聴への対策が、認知症予防になる可能性についてお話しました。難聴の対策の1つとして補聴器があります。ただ、補聴器もどこで購入してもよいというわけではなく、医師を受診の上での作成、また調整の重要性についてお話しし、補聴器相談医のいる耳鼻咽喉科への受診および認定補聴器専門店での購入について呼びかけました。



講演の様子

講演2では、東京医科大学病院聴覚・人工内耳センター センター長西山信宏医師より「より良い聴こえで脳を活性化 -最新の難聴治療について-」というテーマで様々な難聴対策・治療についてご紹介しました。難聴の対策として、軽度～中等度には補聴器、補聴器でも聞こえづらくなってきた高度～重度には人工内耳という方法を紹介した。人工内耳のしくみ・補聴器との違い、補聴器をつけても言葉の聞き取り（語音明瞭度）が50%以下となる方が対象となる適応基準の話を行いました。また人工内耳は、年々ご高齢でも手術をされている方の増加や、高齢の方でも十分効果があることについて紹介しました。その他難聴の種類によっては骨導補聴器や、軟骨導補聴器、埋込型補聴器についても紹介、難聴の対策には様々な選択肢があるため、最適な治療法を選択するためにも耳鼻咽喉科への受診を呼び掛けました。